

## もくじ

ちくりん舎(市民放射能監視センター)が設立されました	1
12/1「ここが問題! 原子力規制委員会集会」報告	2
依然として高濃度汚染が続く渡利・大波	2
FFTV 紹介	3
どなたでもご参加できます	4
福島ほかプロジェクト	4
活動日誌(10月19日~12月11日)	4

## フクロウの会 (福島老朽原発を考える会)

●フクロウの会は放射能汚染や事故の心配がなく、放射性廃棄物を生み出さない社会、すなわち原発のない社会をめざして首都圏で活動を続けてきた団体です。

●今回残念ながら福島で重大な事故が起きてしまいましたが、事故による人々の被ばくが少しでも少なく抑えられるよう事故直後から情報提供、放射能測定プロジェクト、国や自治体への働きかけなどの活動を行ってきました。

●そんなフクロウの会の様々な活動を支えるための会員・サポーター・資金カンパ募集中です。ご協力いただけますと幸いです。

### 【カンパ送り先】

- ゆうちょ銀行からの振替  
・口座記号番号  
00130-9-655439
- ・口座名称(漢字)  
福島老朽原発を考える会
- ・口座名称(カナ)  
フクシマロウキウゲンバツウカンガエルカイ
- 他の金融機関からの振込  
・銀行名= ゆうちょ銀行  
・金融機関コード 9900  
・店番 019  
・預金種目 当座  
・店名 〇一九店(ゼロイチキユウ店)  
・口座番号 0655439

フクロウの会(福島老朽原発を考える会)のブログ...<http://fukuro.txt-nifty.com/fukuro/>

## ちくりん舎(市民放射能監視センター)

が設立されました

### ゲルマニウム半導体検出器による高精度測定が可能に

10月28日、立川市にて市民放射能監視センター(ちくりん舎)の設立総会がひらかれ、市民の共同ラボの設立が決まりました。設立総会には40名近くの人が集まり、ちくりん舎の目的や役割、今後の運営方針を確認しました。ちくりん舎にはフランスの市民放射能監視 NGO—ACRO からゲルマニウム半導体測定器が寄贈される予定で、3月の測定開始を目指して受け入れ準備が本格的にスタートしています。

### ちくりん舎設立にいたったわけ

昨年3月11日原発事故直後、グリーンアクションのアイリーンさんの橋渡しで、米国の反核団体 NIRS、フランスの市民放射能測定 NGO—ACRO との連携体制ができあがりました。それ以来、ACRO には土、水、野菜などの分析に加え、子どもたちの尿検査による内部被ばく調査で全面的に協力をいただきました。ACRO はフランス国内で助成金・寄付を集め、ゲルマニウム半導体測定器を寄贈する計画も進めていました。私たちにそのゲルマニウム半導体測定器を寄贈するという知らせが届いたのです。とても嬉しい半面、私たちのグループだけでこの新しいラボを維持できる見通しもなく、大変大きな仕事を任せられたとの思いでした。

それ以来、本当にいろいろな方々の助力がありました。中でも東京・日の出町で長年、ゴミ処分場の環境汚染問題と取り組んできた「たまあじさいの会」の皆さんと知り合い、一挙に新たなラボの形が見えてきました。

### 環境団体・脱原発団体などが共同で運営するラボ

ちくりん舎は一般の市民放射能測定所とは異なって、「環境団体、脱原発団体等が行う放射能汚染監視・分析のための共同のラボ」というコンセプトを掲げています。稼働予定のゲルマニウム半導体測定器は一般の市民放射能測定所で使われているシンチレーション測定器に比べ精度が高く、0.3 ベクレル/Kg 程度まで検出精度があります。こうした特性を活かすために、尿検査や環境汚染監視などのように継続的に高精度での測定を行おうとしている団体やプロジェクト、個人を会員として、会員が共同で運営する放射能分析センターとして運営してゆく予定です。

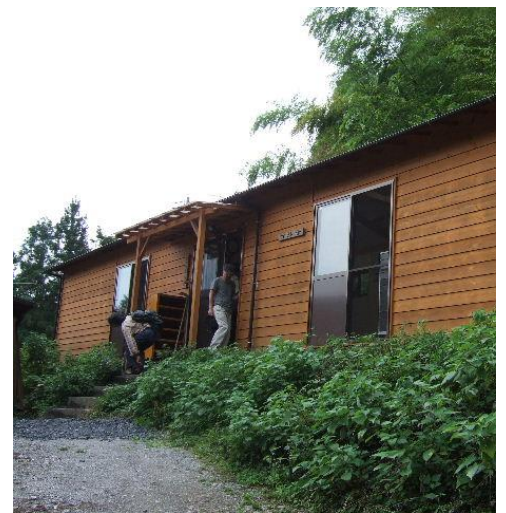
ラボ所在地:

東京都西多摩郡日の出町大久野 7411

URL: <http://chikurin.org/>

Email: [lab.chikurin@gmail.com](mailto:lab.chikurin@gmail.com)

Tel: 080-4616-1280 (浜田)



ちくりん舎ラボの予定地  
(たまあじさいの会竹林舎)



## 12/1 「ここが問題！原子力規制委員会集会」報告

12月1日に都内の全水道会館において、東京大学名誉教授の井野博満さん、福島原発事故緊急会議の杉原浩司さん、FoE Japanの満田夏花さん、弁護士の青木秀樹さん、フクロウの会の阪上武がそれぞれ、新安全基準、「有識者」選定、原子力規制委員会の役割と権限、基本的な指針類、大飯原発活断層調査と防災指針についてお話し、討論する集会を共催しました。

選挙前でもあり参加人数が心配されましたが、約70名のご参加をいただき、盛況のうちに開催することができました。3時間という短い時間の中で盛りだくさんの内容で難しい話もありましたが、参加者はみなさん熱心で、発言も途切れることがありませんでした。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

井野さんのお話は、福島事故が、シビアアクシデントについて設計に踏み込む対応をせ

まっているのに、あいかわらず付け焼き刃的なものにすぎないこと、金のかかる対応は回避しており、それができるルールがまかり通っていることなど、今規制委員会で議論になっている事柄に則した指摘をされました。

青木弁護士は、福島事故により、立地指針や耐震審査指針、安全評価指針など、基本的な指針類の根本的な見直しがせまられ、斑目氏もそのように指摘していたのに、そこに踏み込む気配すらないこと、特に立地指針の具体化が放置されている中で、立ててはならないところに原発が建っている問題について強調されました。

討論では、原子力規制委員会に対抗して市民側でも委員会をつくるべきだという意見が出されました。原子力規制委員会を監視する市民の会で繋がり、科学者技術者とも連携をはかろうということになりました。

## 依然として高濃度汚染が続く渡利・大波

### 除染の限界は明らか — 国と福島県は避難と除染の政策をみなおすべき

フクロウの会ブログ「【記者会見】依然として高濃度汚染が続く渡利・大波」より

11月15日、フクロウの会と国際環境NGO FoE Japanは共同で記者会見を行いました。(記者会見資料はフクロウブログよりダウンロードできます。通信には紙面の都合上、「1要旨、4まとめ」のみ掲載します。詳しくはダウンロードしていただくか、フクロウの会までご請求下さい。)

#### 1. 要旨

福島老朽原発を考える会(フクロウの会)、国際環境NGO FoE Japanは昨年6月以来、福島市内でも空間線量率が高い渡利、大波地域の放射能汚染状況を継続して監視している。

2012年10月14日に同地域の空間線量率測定と土壌分析を行った。昨年からの定期的な測定結果も踏まえて、現状分析と勧告を行う。

#### 4. まとめ

今回の調査結果からは下記のことが言える。

(1) 渡利・大波地区は依然として高線量率であり深刻な放射能汚染状況が継続している。渡利地区、大波地区は事故から1年8カ月経過した今でも深刻な汚染状況にある。渡利、大波地区はチェルノブイリ後のベラルーシやウクライナの「避難の権利ゾーン」及至「特

別規制ゾーン」に当たる汚染状況である。大波地区は農村であるが耕作ができない状況である。

(2) 「除染」は計画どおり進んでいない。政府、福島市は昨年10月の地域住民への説明会において、「先ず除染を」と強調した。それから1年以上経つが、特に、渡利地域では、未だ除染が行われていない地域がほとんどである。

薬師町内の水路で最高  $4.4 \mu\text{Sv}/\text{h}$  (1m 高)、水路底の土壌の放射性セシウム濃度は  $515,000$  ベクレル/kg である。T 氏宅の庭の土壌は  $115,000\text{Bq}/\text{kg}$  である。このような高汚染状況の中で、住民は除染の順番待をしている状況である。

(3) 「除染」の効果は極めて限定的である。

放射性物質汚染対処特措法で国が定めた「汚染状況重点調査地域」の基準は  $0.23 \mu\text{Sv}/\text{h}$  である。過去の渡利地区の除染モデル事業でも、今回測定した大波の S 氏宅でも、「除染」実施後この基準をクリアしていない。「除染」を先行した大波地域では「除染」直後に比べ、再び空間線量率が上昇している例もある。広大な山や森林を全面的に除染しないかぎり効果は得られない。渡利地区もすぐそばに弁天山を抱えており、そこからの流入、堆積による高濃度汚染の状況を考慮すれば、除染を行ってもすぐに、再び線量率が上がることは必至である。

(4) 除染土仮置き場の管理状態は不十分、保管中や最終処分場への移動時に二次汚染を発生させる可能性がある。

大波地区の除染土仮置き場では、コンクリート壁の内側に大量のコンテナバッグに詰められた除染土が山積みになっていた。コンテナバッグ上部は開放状態であり、土ぼこりによる飛散など二次汚染の可能性がある。早急に改善すべきである。

(5) 国と福島県は「除染」効果の実態を検証し、避難・保養など被ばく防護策を再構築すべきである。上記を総合すると、国、福島県、福島市が進めるとしてきた「除染」は効果が出ていない。早急に「除染」実態を検証し、学校単位での子どもの避難、保養など、被ばく防護策を再構築すべきである。

(6) きめ細かい定期的な測定・監視が必要である。渡利、大波では、いたるところに高線量率の地点、高濃度汚染土壌が存在することが明らかとなった。福島県内や周辺地域も含め、住民生活に即してきめ細かく空間線量率測定、土壌分析を行うべきである。また、定期的に継続して監視データを市民に公開すべきである。

以上



毎週

水曜 20 時☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

### フクロウ・FoEチャンネル(FFTV)好評放送中!

原発のない社会を目指して、ふくろうの会とFoE Japanがユーストリーム放送「週刊FFT V」を始めました! 毎週水曜日、夜8時から放送中!(変更になることもあります。webでチェックして下さいね。)過去の放送もアーカイブで好きな時にご覧いただけます☆ぜひご覧ください!

「フクロウ・foeチャンネル」で検索してみてください。





♪どなたでもご参加できます♪



「IAEA がやってくる! ~IAEA とは?」  
日本に適用される被ばく基準とは?」東京&福島

<東京>日時:2012年12月12日(水) 18:30-20:30  
会場:会議室 内海 2F 教室 (千代田区三崎町3-6-15)  
最寄駅:水道橋駅、飯田橋駅、九段下駅、神保町駅など  
参加費:500円(申込み不要)

<福島>日時:2012年12月13日(木) 18:30-20:30  
場所:福島テルサ あぶくま (福島市上町4-25)  
参加費:無料(申込み不要)

12月15日17日にIAEAと日本政府共催で、原子力安全に関する福島閣僚会議が開催されます。IAEAとはそもそもどんな組織なのでしょうか?チェルノブイリでの多くの疾患がIAEAによって切り捨てられてきましたが、その実態はどのようなものだったのでしょうか?長年オーストリアでIAEAに対峙してきたラインハルト・ウーリヒさん、WHOのあるべき姿を追求してきたIndependent WHOのクリストフ・エランさんにお話しをうかがい、原子力規制委員会が持ち込もうとしているIAEAのとんでもない被ばく基準について、フクロウの会の阪上武が報告します。



アレクセイ・ヤプロコフ博士講演会

「低線量被ばくの健康影響:国際機関の放射線安全概念を問う」

2012年12月14日(金) 18:30~20:30@東京・水道橋(会議室内海3F教室)  
主催: FoE Japan、福島老朽原発を考える会 参加費:1000円 ※申込み不要  
問合せ: FoE Japan 渡辺 Tel: 03-6907-7217 (平日 10:00~19:00)  
国際原子力機関(IAEA)などの国際機関は、「放射線の影響と疾患との因果関係が証明できない」とし、チェルノブイリ被害として小児甲状腺がんなど限られた疾患を認めただけでした。『チェルノブイリ大惨事が人びとに環境に及ぼした影響』の著者でロシア科学アカデミーのアレクセイ・ヤプロコフ氏からお話を伺い、IAEAなどの国際機関の低線量被ばくの健康影響の過小評価について検証します。



12月15・16日ブース出展@脱原発世界会議2

「市民のひろば」にブース出します♪お立ち寄りください♪



フクロウカフェ♪

原子力規制委員会が発足したけど、何が変わるんだろう? 私たちの生活や子どもの未来を守りたい...原発や福島の現状について話し合う「フクロウカフェ」を不定期で開催しています(今回は11月17日)。参加費300円でお茶とお菓子付きです。疑問や不安、私はこう思う!といったことをみんなで話合しましょう。今後の予定はフクロウブログでご確認下さい。

お知らせしていましたがニヤーグ医学博士のセミナーはニヤーグ博士の急病により中止になりました。同日、左の内容に変更して集会を行います。ご了承ください。

活動日誌  
(10月19日~12月11日)

8/18「尿検査・ACROの活動の報告集会 - 子どもたちの尿検査から見えてきた放射能汚染の実態」

10/28「ちくりん舎(市民放射能監視センター)」設立集会共催

10/30「原子力災害防災指針に関する署名」共同で原子力規制庁に提出

11/7「大飯原発敷地内の活断層を否定する証拠なし」声明を共同で発表

11/7「大飯原発の即時停止を求める緊急署名」共同で提出

11/11「大飯原発大間違い! 銀座でアピール」共催

11/15「依然として高濃度汚染が続く渡利・大波」問題について共同で記者会見

11/17 定例会、フクロウカフェ vol.4 開催

11/18 セミナー「チェルノブイリから学ぶ~ウクライナの子もたちは今」@福島共催

11/20 院内集会「大飯原発の即時停止を~国は安全審査の「手引き」を守るべき」共催

11/22 セミナー「チェルノブイリから学ぶ~ウクライナの子もたちは今」@東京共催

11/27「福島原発事故による避難者の住宅支援新規受付を打ち切らないで! 署名」共同で厚生労働省に提出

11/28「福島原発事故による避難者の住宅支援新規受付を打ち切らないで! 署名」共同で復興庁に提出

12/1 討論集会「ここが問題一原子力規制委員会一再稼働ありき?断層調査/防災指針/新安全基準の議論の行方」共催

12/10「福島原発事故による避難者の住宅支援新規受付を打ち切らないで! 署名」共同で福島県に提出

その他 FFTV、規制委員会前行動、福島ほかほかプロジェクト、傍聴行動などを他団体と共同で実施中。

フクロウの会では、会員募集中です。

【会費】

会員 1000円/月

サポーター1000円以上/年

●集会でのスタッフやパンフ作成のご協力など一緒に活動していただける方を募集しています。皆さまの貴重なご意見もお待ちしております。

【お問い合わせ・お申し込み先】

TEL/FAX: 03-5335-7213

Email: fukurounokai@gmail.com

(通信郵送のお申し込みもこちらで受け付けています☆ご希望の方はお知らせください。)

福島ほかほかプロジェクト

~福島の子どものための保養の実現に力を貸してください

◆福島ほかほかプロジェクトについて

<http://hinan-kenri.cocolog-nifty.com/blog/cat49338690/index.html>

福島ほかほかプロジェクトはみなさまの寄付で支えられています。

ぜひ、引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

◆オンライン寄付はこちらから

[https://mp.canpan.info/foejapan/products/detail.php?product\\_id=3573](https://mp.canpan.info/foejapan/products/detail.php?product_id=3573)

◆<お振込み口座>(東邦銀行とゆうちょ銀行に、独立した口座を開設しました)

1) 東邦銀行本店・普通口座 3697748

口座名義: わたり土湯ほかほかプロジェクト 代表 菅野吉広

(かんのよしひろ)

2) ゆうちょ銀行・記号 18230・番号 29132261

口座名義: わたり土湯ほかほかプロジェクト

口座にお振込後、下記の申込フォーム又はFAXで、1)お名前(団体名)、2)金額、3)連絡先、4)メッセージ、5)お名前・メッセージのブログ上での公開可否などをご連絡下さい。

<https://pro.form-mailer.jp/fms/1715ebc124776>

FAX: 03-6907-7219